

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370800502		
法人名	社会福祉法人 愛隣園		
事業所名	愛隣の家グループホーム		
所在地	熊本県山鹿市津留2025-1		
自己評価作成日	令和6年12月15日	評価結果市町村受理日	令和7年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	令和7年1月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

県北の自然豊かな地に位置し、関連施設が多数隣接。近くに公園がある環境と木造で温もりがあり、まるで本当の家の様な雰囲気を感じる建物である。理念である「ゆっくり笑顔であるがまま 楽しくみんなとつながろう」の実現のために、地域との交流を大切に、本人らしく、入居者と家族との関わりを大切にする安心できる生活を目指しています。職員においては年齢層は幅広く、個々の得手不得手を生かしたバランスの取れたチームワークが魅力の一つである。ベテラン職員、子育てママ職員など様々な生活環境にいる職員が笑顔で働けるような環境づくりに努めており、入居者様の施設での暮らしがより良いものになるよう、温かみのある笑顔と優しさで日々のケアに携わり、提供するサービスの質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の風土を大切に、入居者が安心して自分らしくあるがままに過ごせるような暮らしとなるよう支援を行っている。山や畑に囲まれ、法人内の多くの施設と隣接しており、法人祭りや職員研修、困ったときの支援体制の構築など協力が得られる環境となっている。排泄支援に関しては、具体的な表現を避け、職員同士が理解できるような言葉に置き換えて連絡し合い、排泄誘導も「トイレに行きたくなかったら声かけて下さい」等のカードを用意して入居者に示し、羞恥心へ配慮している。また、職員間の連絡事項を話すときは、利用者の前で話さない、居室に定められた番地等で表現するなど、様々な配慮が見られる。制作が得意な職員、音楽が好きな職員など、それぞれの能力を十分に発揮して、入居者がより楽しく暮らせるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり笑顔であるがまま 楽しくみんなとつながろう」を職員でつくり、玄関・台所・職員トイレ等に掲示、朝礼や話し合いにて共有、この理念を元に全職員が常に意識し行動、実践につなげている	職員は毎出勤時に入居者一人ひとりに挨拶し、入居者が、馴染みの顔の人々と一緒にゆっくりとした雰囲気の中で、安心して、あるがままに楽しく生活出来るように支援している。訪問日、食堂でゆっくりおしゃべりしながら寛ぐ入居者の様子から、理念の実践を見ることが出来た。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年も地域の三岳文化への参加はかなわなかったが、作品掲示の協力をさせていただいた。出品作品においては毎年好評をいただくが、作品作成においては、美術・創作を得意とする職員のリードにより、入居者様にはそれぞれの得意分野で作品作りに関わってもらった。出来上がる作品を施設内に掲示することで達成感を共有できた。また、作品を通じて四季折々の季節を感じてもらうことができた。法人ふれあい祭りへの参加し、入居者様、ご家族、地域との触れ合いの場を持つことができた。	法人主催の「ふれあい祭り」は、隣接する特養・小規模多機能・障がい者施設・児童養護施設等の利用者・家族・職員等に加え、地域の人々も参加しており、近隣住民との交流の場となっている。ホームの入居者も、家族や職員と一緒にプログラムや屋台の食べもの等を楽しみ、昔の知り合いと出会うなどの機会となっている。地域の「三岳文化祭」には、入居者と職員で作成した貼り絵などの大作を出展し、協力している。	「三岳文化祭」へ出展されている様子を入居者の代表の方でも見学に行けると、更に良いと思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護なんでも相談所」を設置し看板を立てている。 定期的な運営推進会議の開催、地域の会議の参加、地域の行事(三岳文化祭)には作品の展示のみでの参加となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は予定通り、二か月に一度の会議を行うことができた。委員の方々と直接顔を合わせること、書面だけでは伝わらない表現、タイムロス無く意見交換を行うことができた。	運営推進会議は地域代表、市職員の参加を得て小規模多機能型事業所と合同で実施されている。ホームから実績・事例等の報告のあと、質疑応答・意見交換等が行われている。管理者は、地域で活動するミュージシャンのヒーリングコンサートを開催し、委員も招待したいと検討しており、委員が入居者と触れ合う良い機会になると思われ、実現を期待したい。	意見交換では、自由な話し合いに加え、ホームの課題等についてテーマを設定し、話し合うことでより効果的な会議になると思われる。また、委員に家族代表の参加も期待したい。 会議に、駐在所や消防署、保育園や小学校の代表の方等を招待し、情報交換等を行うなどの機会があれば更に良いと思われる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらうことで事業所の現状をその場でご理解いただけた。会議が行えない場合にも資料作成し、各関係者様へ連絡を取り資料送付し、継続的なつながりを保てるような体制作りができています。	管理者は、経年劣化した浴槽の改装を行うべく市役所に出向いて補助金等の申請を受ける方策について相談している。担当課から、適切な情報やアドバイスを受け、申請に向けて準備中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接施設との合同の身体拘束廃止委員会に参加することにより理解や意識を高めている。勉強会を行い、参加できなかった職員には、委員より内容を伝え周知している。動画視聴して学ぶ機会を設けるなど環境づくりに法人全体で取り組んでいる。スタッフ会議で議題にあげ、身体拘束に対する理解を深め、短時間でも身体拘束しないケアについて話し合い、実践している。入居者それぞれの行動パターンを理解し職員全員が把握することで、制限してしまいがちな入居者の行動をそれぞれの「役割」へとスムーズ移行できるような工夫(業務の流れ)を行うことも身体拘束防止へとつながっている。また、ストレスが溜まらないようにホーム内の行事に工夫をしたり、日光浴を行っている。	法人内の身体拘束廃止委員会には、ホーム代表が委員として参加し、勉強会には全職員が参加することとなっており「身体拘束をしないケア」についての意識の浸透・醸成に取り組んでいる。「その言葉 声に出す前 一呼吸」と、トイレの前に掲示して、職員へスピーチロックへの注意喚起を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止に関心を持ち、理解や意識を高めるようスタッフ会議等で話題にあげ意見交換を行い、互いの意識向上につなげている。職員間のコミュニケーションもよく取れており、日々の業務の中においても些細なことであっても意見交換し、情報共有している。定期的に開催されている委員会に参加し、全職員に報告・回覧を行い、身体拘束についての理解を深める努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は家族より相談受け、助言や協力などの支援している。職員は学ぶ機会があり、情報の共有もできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、不安や疑問を必ず尋ね、理解・納得を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から要望を聞き、察する努力や言いやすい働きかけにて運営に活かしている。利用者やご家族のご意見・ご要望に耳を傾け、お気持ちに寄り添えるよう努めている。まだまだ面会には制限が多い施設もある中、入居者のご家族との触れ合いの場を設けることを重視しており、少人数（短時間）、予約制ではあるが面会を実施している。また、担当者会議も行っている。（ケアマネ、管理者、担当職員）直接面と向かって話し合いを行うことで、施設内での様子を伝え、率直なご意見をいただいている。また、その会議の場にご本人様も参加いただいている。家族会は、唯一ご家族同士の触れ合う場ではあるが、人数制限もあり、家族会は延期のままである。	面会は予約制とし約30分を目途に面会室で行っている。入居者個々に担当職員を定め、家族との窓口として意見や要望を聞き取り、ケアに反映するとしている。また、サービス担当者会議では、利用者・利用者家族・管理者・ケアマネジャー・担当職員が参加して意見交換を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員に対し、意見や気づきを言えるように働きかけ、すぐに反映させている。運営者は、日頃の報告・相談にて、職員の意見を反映している。立場は関係なく、細かい報告や意見などの発信もしやすい環境にあり、「まずはやってみる」という形で実践しやすい体制作りが整っている。定期的にスタッフ会議を開催し、職員の気付きやアイディアの提案、ケアの手順の統一の再確認などを毎日のミーティングで行っている。	管理者は、出来るだけ自分から職員に声掛けし、相談や意見等が言いやすい環境づくりに工夫している。出された提案は、「否定することなく試してみる」としている。	職員会議を定期的に行い、議題を決めて話し合い、議事録をとり、サービスの質の改善等に関する履歴が残ることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	様々な生活環境に対し、柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努め、変更や工夫をすぐに行っている。職員がストレスをためないように、やる気の出せる職場環境や整備に常に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会は、コロナの感染状況により中止となるものや、各々で動画を視聴して学ぶ機会を作るものもあったが、研修などには積極的に参加するようにした。毎月の感染症拡大防止対策委員会参加及び報告は出来ている。ホーム内での短時間研修会は開催し、質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山鹿地域グループホームのグループラインで相談して、意見・情報交換している。また、隣接の看護師・介護職員・管理栄養士との交流もあり、質の向上につながっている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望を言いやすい働きかけや本人と向き合う姿勢を常に持ち、配慮や努力を全職員がしている。何気ないような発言や行動なども、昼夜問わず記録に残すなど、全職員が情報を共有することに重きを置いて、提供するサービスにばらつきがないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等が困っていることや不安・要望等に耳を傾けながら、相談しやすい声かけや雰囲気作りを行い、家族との信頼関係作りに努力している。ご家族へ生活歴の聞き取りをし、本人様の人生マップを作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との話し合いの中から、その時必要としている支援を共に考え、介護計画や環境作りを行なっている。入所前の段階から、管理者と担当介護者で訪問して必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の経験や知恵を言いやすい働きかけから、職員と共に暮して楽しむ場面を作り、共に暮す関係を築けている。また、本人の人生を理解した上で、生活の中で本人が選択できる場面を作り、職員からの一方的なアプローチではなく、同じ目線で寄り添うことで信頼関係を築き、共に生活を考えるように全職員が接している。情報の共有もできている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に本人を支え合う環境作りという点においては、電話での本人様とご家族の直接的な会話、担当者会議やホーム内での対面面会(短時間)などにより、ご家族との絆の大切さが再認識できるように働きかけられている。通院時には、家族の協力もあり共に支え合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接の施設の馴染みの人とおしゃべりがしやすい環境。地域の行事参加時には、声かけてくださる方がおられ、馴染みの関係ができています。コロナにより外出を控えていたが、施設周辺の散歩や、ご家族との外出で地域との関りが増えてきている。毎年開催される「法人ふれあい祭り」を入居者・ご家族共に楽しみにされている。	隣接する法人内施設から入居してきた利用者には、前施設の職員から訪問を受けたり、デイサービス利用者に会いに行くなどの機会はある。	個人的な馴染みの人や場所などを把握して、馴染みの関係が途切れないような個別支援への取り組みも期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性・要望を考え、食堂や居間での席を配慮。役割分担により利用者同士が支え合っている事を実感されている。又、孤立することが無いように職員が橋渡しになり、利用者同士のより良い関係づくりを支援している。 レクリエーションの時間は、利用者様同士のコミュニケーションを深める時間となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等に入所された方に会いに行き、関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から本人の人生の情報を把握し、本人の希望を聞き取りながら、本人本位の生活を検討している。又、要望の訴えない方には、顔の表情や行動、態度、家族からの情報をもとに本人の想いを検討している。職員同士、日々個々の想いを受取り、できる限りその想いを優先することに重きを置いて、当日の予定を変更して柔軟に対応するなど、臨機応変に工夫をしている。天気が良く「外の空気を吸いたい」とおっしゃれば、中庭に出て季節を感じながら、日光浴を楽しむということを自然な流れで行えている。	本人と家族の意向を聞いて、本人本位の支援を基本としている。言葉での表現が困難な入居者の場合は、行動や仕草を観察し、時間をかけて行動の要因を探り、思いや意向の把握に努め、支援に繋げるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の施設や家族からの情報だけでなく、入所後も対面面会時や電話での近況報告時に家族から生活歴を収集している。また、個々に「人生マップ」を作成し、入居者との会話で知り得た生活歴を書き込み、情報共有に活用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や本人の想いを踏まえ、個別の1日の過ごし方を把握している。又、少しの変化でも随時記録に残し、必要であればミニカンファレンスを開催し、情報交換・情報共有する。全職員が連携しながら、常に利用者の情報をアップデートしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制にて、家族との連絡時や状態報告時に意見や要望を聞き、全職員で検討し、介護計画を作成している。主治医の意見や職員のアイデアを反映している。対面面会時にも報告・意見交換している。コロナ禍に中止していた担当者会議は、再開できている。職員それぞれの観察力が優れており、細かい部分の気づきがケアの実践につながっている。	ケアマネジャーがモニタリングを行い、介護職員の意見を聞いて、担当者会議で検討してケアプランの見直し・作成等が行われている。見直し後のプランは職員に回覧し、入居者個々のファイルに保管するとしているが、訪問当日、評価員はプランを確認することができなかった。	ケアプランの位置づけについて、全職員が理解し、いつでもプランを参考に日々の支援が行われるような体制づくりが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の変化や状態がわかりやすいように個別に記録し、情報を共有したり、気づきをすぐに記載し検討、実践や介護計画の見直しに活かしている。申し送りの時間の中でも議題にあげ、ミーティングを行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	愛隣園法人事業の多機能を活かした柔軟な支援や協力体制がある。以前より法人全体で行われていた、慰問や法人ふれあい祭りなどは、地域の方との交流の場となっている。昔ながらの行事(大祓い、紀元節式典、花まつり、法話会など)には積極的に参加し、敬老の日には、お祝いの手作りお菓子が配られ喜ばれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多数の施設が近隣にある関係で、慰問や各行事は、ホームに必ず声かけの働きかけがあり、コロナの感染状況に応じ、外出の支援ができている。また、運営推進会議でも働きかけをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医の受診を家族とホームとで協力して、受診介助、情報提供を行っている。入居者の細かな変化にも柔軟に対応できており、医師との連携にて、適切な医療が受けられるように体制を整えている。家族への連絡・報告も行っている。	かかりつけ医への受診は、家族同行を基本としている。協力医院から毎月1～2回の訪問診察が行われており、適切な医療が受けられる体制が構築されている。また、隣接する特別養護老人ホームの看護師にも気軽に相談できる環境となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が医師との連携のうえで、日常の健康管理や状態変化に応じた支援ができています。看護師不在だが、隣接の特養看護師に気軽に相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供受け、経過記録記入。退院時は、スムーズにホームの生活環境に落ち着かれるよう、入院中の生活の様子を聞き取り、職員間で意見交換しケアにつなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「事前指定書」にて、家族に重度化した場合の意向や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等、かかりつけ医とも話し合っている。全職員、方針の共有ができ、チームで取り組む体制が出来ている。重度化への対応は、その都度に全職員で検討し、見直している。	入居時に「事前指定書」を用いて医療等に関する利用者と家族の意思確認を行っている。ホームでは看取りを行っていないため、重度化や終末期等は病院への入院となることが明記されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、全職員がマニュアルを把握できている。隣接の特養の勉強会にも随時参加している。マニュアルは定期的に見直す機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関連施設が多く、緊急時の協力体制あり。消防署来所にての火災訓練や緊急用ボタンで隣接施設からの協力体制及び訓練もできている。 体験をもとに、災害に備えマニュアル化している。食料品、消耗品は備蓄も兼ね適正在庫の管理ができています。	消防署立ち合いによる火災避難訓練と自主訓練等、年に2回実施している。訓練後、消防署員から「避難誘導済みを確認した際、居室の名札を下に落とす」等、無駄のない適切な行動へのアドバイス等を受けている。災害に備えてお米・缶詰・レトルト食品等を備蓄し、賞味期限前に「災害食の日」として消費し、適切な管理を行っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自尊心を傷つけないように常に考え、声かけやケアを行っている。入居者それぞれの個性を大切にし、声掛け、接し方に工夫をしよう対応できている。申し送り時は、名前だけでなく居室の番地を活用して配慮。排便は「お花」、排尿は「お水」に言い換えて、職員同士の情報共有及びプライバシーに配慮している。入居者の話を入居者の前でしない様心がけている。(他の方の事でも反応し、混乱されることがある為)	プライバシーへの意識が繊細な入居者の居室前には、「許可なしに入るべからず」と大きな文字で表示し、本人の安心に繋げている。職員間での連絡事項等は、入居者の名前を使用することなく、居室ごとに設定されている番地を使って話し、プライバシーに配慮している。また、排泄支援に関しては、具体的な表現を避け、言葉を置き換えて表現し、入居者の尊厳を大切に支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を作り本人が選択しやすい場面作りや、日常生活の中で希望、関心、嗜好を言える働きかけをゆっくりとした声かけで行っている。本人の反応や表情などで納得されているかを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペース優先で、柔軟な対応を心がけている。地域や関連施設での行事等も強制することなく本人の選択に任せている。また、本人の希望を確認し、【その時に何を優先すべきか】を必ず頭の中に入れ実行。毎日の日課が途切れることが無いよう、業務をずらしたり工夫したりしながら要望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は、地域の理容室に来てもらっている。服装は、職員と共に選ぶ機会を作り支援。入浴後の化粧水やクリームの介助など細やかに配慮。「身だしなみ」をご自身でできるように、道具の置く場所の工夫や、持ち物の在庫管理を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	令和6年12月より、食事を外部発注し栄養バランスの取れた食事提供を行っている。入居者の多くが楽しみにされている食事であるが、外部発注することで栄養バランスはもとより、バリエーションに富んだ食事を提供することができ大変喜ばれている。摂取するにあたり、個々の能力に応じ、場面作りを積極的に支援している。祝日や誕生会の献立には提供するもので季節を感じたり、本人様からのリクエストなど、希望を聞きながら変化をつけ楽しんでもらっている。水分補給の時間においては、単純に水分を提供するのではなく、個々の好みに合わせカフェオレやスポーツドリンクなど楽しみをもってもらえる様工夫している。	適切な栄養管理のために食事を外部へ委託し、主食は、法人内で作られた米をホームで炊き、提供している。また、新鮮な果物等も加え、季節感のある食事となるよう配慮している。お節やクリスマスの行事食も提供されている。レクリエーションの一環として入居者と一緒にクッキングを行い、美味しい手作りおやつを提供する機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた献立、確実な水分補給の支援。病気でも家庭的で満足できる工夫。本人の習慣を大切に、食事摂取量や水分摂取量のチェックと記録も行う。個人の嗜好を重視し、好き嫌いの多い方のために、常時代替を用意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの能力に応じた支援を行っている。また、入れ歯洗浄(薬)も行っている。歯科医訪問(アセスメント作成)もあり、アドバイスを受けている。歯科医師より仕上げ磨きの大切さを教わり、毎食後仕上げ磨きのお手伝いをし、口内の観察にも努め、清潔を保つことを心がけ、誤嚥防止にも重きを置いてケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとにさりげなくトイレへ声かけ・誘導。入居者様それぞれの排泄パターンを観察・記録し、その情報を共有することで、本人様または職員にとっても負担が少なくスムーズな支援ができるよう心掛けている。入浴日以外でも清潔保持のため陰部洗浄を行っている。本人に合った排泄や昼夜の排泄介助についても話し合っている。メッセージカードを作成し、自立支援を促しADL維持の為にも工夫をしている。	入居後しばらくは、トイレ誘導を頻回に行い、排泄パターンを把握することになっている。その後は、個々人に沿ったタイミングで誘導している。「トイレに行きたくなったら声かけて下さい」「またあとで声かけますね」等、カードに表示して入居者とコミュニケーションをとり、様々なアイデアと工夫、思いやりで快適な排泄となるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量・水分摂取量の把握できるように個人記録に記入している。水分補給とトイレ座位中の前屈運動の働きかけの支援にて、自然排便を増やしている。主治医への相談も行なっている。テレビの体操(録画)を見て体操される場面作りも毎日できている。腸活として、起床後に白湯を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	回数や順番は、本人の希望に合わせている。しょうぶ湯やゆず湯など季節を味わい楽しめる支援や、リフト浴を導入したり、重度化に伴い職員2人介助で安心して入浴できる支援もできている。入浴を好まれる方、そうでない方を考慮し入浴を行っている。回数にばらつきがない様、ひと目でわかるように一覧表を作成。入居者同士の相性も考慮しケアをしている。	週に2回から3回の入浴を基本としているが、気分がのらない時は柔軟に対応している。冬場、足がむくんだり、冷たくなったりしたときは、足湯で支援している。浴槽が老朽化したため、改造すべく市役所へ出向いて補助金の申請等、検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人に合わせた就寝・起床。温湿度に注意し、加湿器や個人に合わせたエアコン・あんか・電気毛布・氷枕の使用が出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルが、常時すぐに見れる場所にあり、全職員は薬の目的や副作用、用法や用量について理解。変更時は確実な申し送りを実践。症状変化時は、隣接の特養看護師や主治医に相談や報告。服薬は、個人能力に応じ介助(服薬ゼリーなども活用)し、確実な服薬のために声かけと確認ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や力を把握し、個別の楽しみ(買物・貼り絵・塗り絵・歌・散歩)にて張り合いのある生活につながる支援をしている。個別の嗜好品(お菓子や果物)が食べられる支援もしている。 台所での料理の手伝い、洗濯物たたみなど、生活延長上のお手伝いをさせていただくことで生きがいを感じてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせ季節を感じる外出(散歩)・関連施設での慰問・地域の行事等の外出支援が出来ている。感染状況に合わせたご家族との外出(外食)の時間を設けることで、本人様及びご家族で楽しみを共有できる場面作りを提供することができている。 面会時に施設周辺を一緒に散歩されるなど、ご家族と入居者双方の気分転換・ストレス発散ができています。	日常的には施設周辺の散歩や、庭で食事や茶話会をして外気を楽しむ機会としている。個々人の外出支援は、ほぼ行われておらず、家族による外出支援となっている。本人の希望を把握し、家族等の協力を得てできる個別支援の外出等の検討を望みたい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全職員、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、本人の管理能力に応じ、個人の希望、及び、家族との話し合いをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけることができる。電話は2台設置、施設の携帯電話もあり、使いやすい場所、電話を利用してもらっている。ご家族からのお手紙は見やすいように居室に貼ったり、目の不自由な方には読んでさしあげるなどしている。携帯電話を用いて会話される時は面会が円滑に進むよう職員がサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と共に、季節に応じたホーム内の飾りつけをしている。必要に応じ、寒冷遮やすだれ・よしずを使用したり、テレビの音量や番組にも常に配慮し録画もしている。個人に合ったイスを使用。 なかなか外出がかなわないでおられる環境の中でも、行事ごとの飾りづけを入居者と一緒に行うことで季節を感じてもらっている。	木の温もりと和風の平屋造りの屋内は、明るすぎず落ち着いた雰囲気となっている。食堂・畳のある陽当たりの良い居間・少し離れたフローリングの居間等があり、その時の気分で好きな場所、寛げる場所を選べる環境となっている。テーブルには季節の花を飾り、廊下には入居者と職員で作成した貼り絵の大作や、愉快なお面、達磨さんなどを飾っている。訪問日は、エレクトーンの伴奏に合わせて「ひな祭り」や「茶摘み」等、歌声が聞こえていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・2つの居間にて、ソファ・数種類のイスが随所に置いてあり、自由に選んで過せる場所に配慮。また、入居者同士の相性も考慮。1人でゆっくりとテレビを見たい方への配慮もできている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力あり、使い慣れた家具、イス、毛布類、テレビ等や家族写真を自宅より持参。各行事での贈り物を本人居室に飾ってもらい、毎日見ておられる方もいる。	和風の引き戸を開けると、居室には洗面台と広い収納庫があり、窓からは畑や山などの景色が広がっている。テレビやお花、タウン誌に掲載された写真の切り抜き、長椅子等、一人ひとりの状態に沿って、安心して過ごせるように配慮した部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は番地と名札を掲げている。基本バリアフリーで安全に配慮した作りの中、個人の能力をみて、できるだけ自立した生活がおくれるように手すりを増やしたり、トイレトペーパーを下げる位置、ゴミ箱の位置など、職員が入居者の行動を観察することで、自立を妨げることなくスムーズな介助につなげることができている。		